

平成 28 年度 政策評価 (事中評価)

評価の仕組み

政策評価は、町長、副町長、事業担当課による自己評価を行う「内部評価」と、町民目線の客観的な評価と提言を行う「外部評価」により進められます。年度の半期を終えた9月までの事業に対する評価を「事中評価」として10月から2月にかけて次年度の予算編成と併せて行い、当年度の成果達成に向けた改善策への反映、さらに次年度へ向けた見直しと予算に反映されます。3月には、当年度の事業実績を踏まえ「事後評価」を行い、次年度の成果達成に向けた改善策に反映されます。継続的に事業を改善し、PDCAサイクルによる実効性ある事業を展開していくために欠かせない仕組みです。

評価の流れ

政策評価の対象は、平成27年度からスタートした、まちの最上位計画「第6次総合計画」に位置付けられている事務事業です。1次内部評価では、事業担当課が事

業ごとに設定した活動指標および成果指標の実績を把握します。次に、前年度の評価で出た改善内容や現状の課題を検証し、今後の実施方針を提示した上で、判定を決定します。

並行して進められる外部評価では、公募町民などで構成される政策評価委員会が特に関心の高い事業を選定し、1次内部評価の結果も踏まえながら町民目線で評価を行い、判定と改善策の提案などを報告書にまとめ2次内部評価前に町長へ提言します。

2次内部評価では、副町長が1次内部評価と外部評価の結果を踏まえ、次年度の予算編成と併せて事業担当課へヒアリングを行い、判定を決定します。

最終内部評価では、町長が2次内部評価の結果を踏まえ、次年度の予算編成と併せて事業担当課へのヒアリングを行い、最終的な判定を決定します。

今年度の評価結果

今年度は、183事業(全191事業中)の事中評価が行われ、最終内部評価では、139事業が「計画通り進める」、42事業が「改善検討」、2事業が「抜本的見直し」と判定されました。政策評価委員会による外部評価では3事業が選定され、2事業が「計画通り進める」、1事業が「改善検討」と判定されました。

問い合わせ

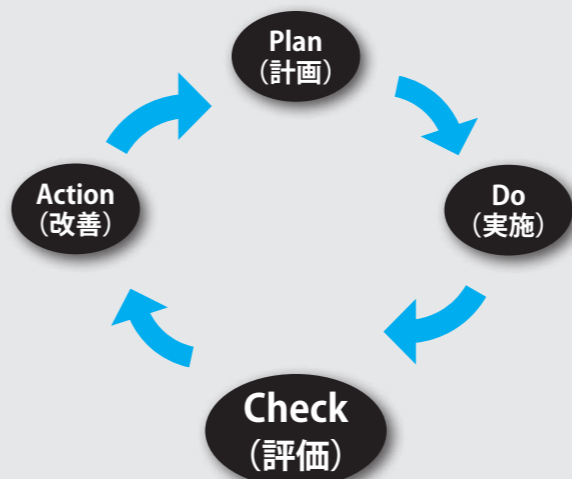
町経営企画課地域政策グループ
☎ 7502

政策評価の結果 (平成 28 年度)

(単位：事業)

評価判定項目	1次評価	外部評価	2次評価	最終評価	割合 (前年対比 %)	
計画通り進める	159	2	140	139	75.96	(↘ 6.26)
改善検討 (事業内容)	17	1	36	37	22.95	(↗ 6.28)
改善検討 (事業費)	2		1	1		
改善検討 (その他)	4		4	4		
抜本的見直し	1	0	2	2	1.09	(↘ 0.02)
合計	183	3	183	183		

PDCA サイクル



各事業の評価内容や結果は、町ホームページで公表しています。皆さんも評価結果をしっかりとチェック！



Plan (計画) → Do (実施) → Check (評価) → Action (改善) を順に実施。このプロセスを循環することによって、継続的な改善活動を推進するマネジメント手法のことを指します。

まちの事業をしつかりチェック！
町では、総合計画の施策目標に基づいて行う計画事業の進捗状況や現状の課題、成果などを評価・検証し、次年度への改善につなげる「政策評価」を平成20年度から実施しています。このほど、平成28年度の政策評価(事中評価)の結果がまとまりましたので、実施概要と合わせてお知らせします。

外部評価

町民目線によりよい事業を！
政策評価委員会が報告書を提出



政策評価委員(任期2年)

- ◆委員長 端 師孝 (はたしこう)
- ◆副委員長 鈴木克典 (すずき かつ典) (北星学園大学教授)
- ◆委員 金崎行男 (かねさき ゆきお)
- 西岡政則 (さいおか まさのり) (栗山青年会議所推薦)
- 村中京子 (むらなか きょうこ)

政策評価委員会は、「コミュニティスクール」「コミュニティバス」「移住・定住促進」に関する3事業について報告書をまとめ、昨年12月20日、町に提言しました。委員会は9月から7回にわたり開催。評価における実施方法の検討、評価対象事業の現地視察を含む事前学習会とヒアリングを行い、有識者委員である北星学園大学の鈴木克典教授の助言を受けながら、事業内容の把握に精力的に取り組みました。端委員長は「町民目線を意識したほか、評価方法を見直すなど工夫して評価を行いました。効果的な事業展開の一助となれば幸いです」と述べ、報告書を受け取った花田正博副町長は感謝の意を伝えました。



政策評価の流れ

